

記載内容と留意事項

2023 年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

地方公共団体の長の氏名  
(共同で提案を行う者の氏名)

※ 押印は不要

提案全体のタイトル	〇〇〇〇
提案者	〇〇〇〇 ※複数の地方公共団体が共同で提案する場合には、代表となる提案者に◎を付す。
担当者・連絡先	担当者の所属 〇〇〇〇 ※複数の地方公共団体が共同で提案する場合には、取りまとめ担当者を記す。 役職・氏名 〇〇〇〇 電話番号 〇〇〇〇 ファックス番号 〇〇〇〇 メールアドレス 〇〇〇〇

- **留意事項** ※提出する提案書からは本頁を削除すること。

### 【文量について】

- 簡潔で読みやすい提案書となるよう意識し、**全体で15～50頁程度**で作成すること。
- 過度に冗長な記載とならないよう、必要な内容を簡潔に記載すること。
- 頁数の制限のある項目は留意すること。
- **「1 全体計画」部分への記載内容と、「2 自治体SDGsモデル事業」部分への記載内容については、重複した記載とならないよう留意すること。**
- 参考資料については添付不可とする。なお、提案内容と関連性のある情報について、記載箇所への注記として、提案書内へ公表されているホームページ URL の記載等を行うことを妨げるものではないが、必要最小限とすること。

### 【体裁等について】

- 文字は注記、解説、表中の記述等を除き原則として **11ポイント以上**の大きさとすること。
- 文章の語尾は「です・ます調」ではなく、「だ・である調」に統一すること。
- 改ページの位置は変更しないこと。
- 改ページの文言は削除すること。
- 必要に応じ、図や画像を使用して作成すること。
- 必要に応じ、客観的、定量的なデータを記載すること。
- 地域固有の事情の説明等で文章が長くなる場合については、必要に応じ、「解説」として各記載欄の末尾に付記すること。
- 提案書フォーマットに記載された、各項目名は、変更せず作成すること。

### 【その他】

- SDGs未来都市に選定された場合、提案書の内容を基にSDGs未来都市計画を作成頂くが、提案書の内容とSDGs未来都市計画の内容に相当程度の齟齬が生じることはできない。ただし、自治体SDGs推進評価・調査検討会や自治体SDGs推進関係省庁タスクフォース等からの助言等への対応のために生じる齟齬は、この限りではない。





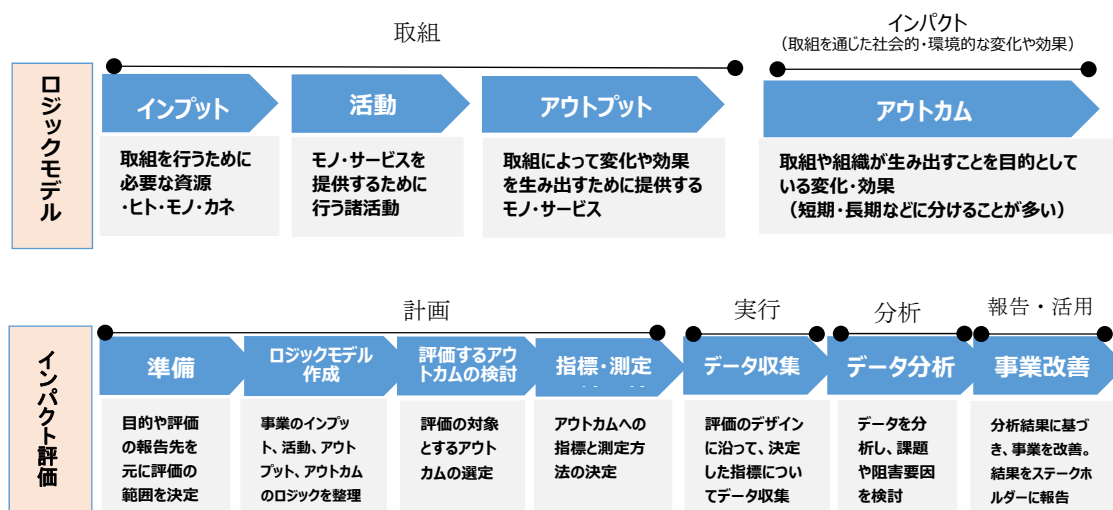
(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

- 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲットを、経済・社会・環境のそれぞれの側面について記載すること。
  - 全体計画の1. 2(1)「自治体SDGsの推進に資する取組」、モデル事業の2. 1「自治体SDGsモデル事業での取組提案」と記載内容が重複する場合は、【詳細は後掲】とするなど補足し、関連性が最も深い箇所へ詳細の説明を記載すること。
  - 各ゴール、ターゲット及びKPIについて、記載すること。
  - KPIを設定するにあたり、取組及びそれによる変化・効果を明記すること。
- なお、変化・効果については、可能であれば、ロジックモデル及びインパクト評価※を用いることを検討されたい。

※ロジックモデル及びインパクト評価について

「ロジックモデル」とは、事業や活動の社会的・環境的な変化や効果【インパクト】の実現に向け、「取組を行うために必要な資源【インプット】」、「インパクト実現に向けた具体的な諸取組【活動】」、「取組における具体的なモノ・サービス【アウトプット】」、そして「モノ・サービスを通じ生み出される変化・効果【アウトカム／インパクト】」を整理したものである。また、「インパクト評価」とは事業や活動の社会的・環境的な変化や効果を定量的・定性的に把握し、事業や活動について価値判断を加えることを指す。

なお、「インパクト評価」については、取組の変化・効果を評価することにおいて有用である。そのため、可能であれば、提案作成時において事業の評価方法として検討されることが望ましい。



※上記の図は、「社会的インパクト評価ツールセット実践マニュアル」(Ver.2.0)

2017年6月29日 GSG 国内諮問委員会 社会的インパクト評価ワーキング・グループから、抜粋、加工  
 ロジックモデルの図:P9「ロジックモデルの用語について」  
 インパクト評価の図:P7「図表 2:評価の実践ステップ」





## 1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

### (1) 自治体SDGsの推進に資する取組

- SDGs未来都市選定後の3年間(2023~2025年度)に実施する取組を記載すること。
- 2030年のあるべき姿の実現、及び、優先的に取り上げるゴール、ターゲットの達成に向けて、今後3年間に先導的に進める取組の概要について、記載すること。
- 各取組について、関連するゴール、ターゲット及びKPIを記載すること。各取組は、前節で記載した優先的なゴール等の達成に資する取組内容になっていることを確認すること。
- KPIを設定するにあたり、取組及びそれによる変化・効果を明記すること。  
なお、変化・効果については、可能であれば、ロジックモデル及びインパクト評価を用いることを検討されたい。(5ページ「ロジックモデルとインパクト評価について」参照)
- 全体計画の1.1(3)「2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット」へ記載している内容と重複する場合は【再掲】とし、モデル事業の2.1「自治体SDGsモデル事業での取組提案」と記載内容が重複する場合は、【詳細は後掲】とするなど補足し、関連性が最も深い箇所へ詳細の説明を記載すること。
- なお、KPIの目標年次は2025年を目安とするが、既に策定済みの2025年頃を目標年次としたKPIがある場合は、それを引用しても構わない。また、KPIを、今後新たに検討、策定する予定がある場合は、現段階では暫定的な目標設定の考え方での記載で構わない。
- 設定されたKPIの進捗確認を毎年行うため、1年ごとに進捗を測ることが可能なKPIを設定することが望ましい。
- 取組3年目の進捗を測ることが可能なKPIを設定すること。
- 記載する取組の数に制限は設けないが、独自性のあるシンボリックな取組を記載することとし、総花的な記載とならないよう留意すること。
- 1つの取組に対して、複数のゴール、ターゲット及びKPIを設定しても構わない。ただし、KPIの数が多量とならないよう留意すること。
- 自治体SDGsモデル事業での取組提案については、「2 自治体SDGsモデル事業」に記載すること。ただし、自治体SDGsモデル事業と密接な関連がある取組については、その関連性について、各取組の末尾に記載すること。
- 取組の進捗管理の際には、KPIの達成度に関して、進捗した具体的な取組内容や2025年の目標達成に向けた取組課題や対応等を記載いただく予定。
- なお、以下の計算式を基本とし、KPIの達成度を測る。  
  
達成度の計算式(基本式) 
$$\frac{\text{現状値(進捗評価年の現状値)} - \text{当初値(計画時の現在値)}}{\text{目標値(2025年の目標値)} - \text{当初値(計画時の現在値)}}$$
- また、上記の基本式で計算できないKPI(人口、空家数など維持を目標とするKPI等)





















(取組概要)※150文字

○

(全体計画への効果)

○

## (2)三側面の取組

- 経済・社会・環境面のそれぞれの取組概要と、KPI、関連するゴール、ターゲットを記載すること。
- ここで設定する KPI は、「2030 年のあるべき姿に向けた優先的なゴール」で掲げた KPI の達成に繋がることを意識し、成果・効果を捉えたアウトカム指標が設定されていることが望ましい。
- KPIを設定するにあたり、取組及びそれによる変化・効果を明記すること。  
なお、変化・効果については、可能であれば、ロジックモデル及びインパクト評価を用いることを検討されたい。(5ページ「ロジックモデルとインパクト評価について」参照)
- 記載する KPI の数に制限は設けないが、毎年行う進捗確認等、定期的なフォローアップを簡易的に行えるよう、適切な数の KPI を設定すること。
- 全体計画の1. 1(3)「2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール、ターゲット」、1. 2「自治体SDGsの推進に資する取組」、モデル事業の2. 1(1)「課題・目標設定と取組の概要」へ記載している内容と重複する場合は【再掲】とし、モデル事業の2. 1(3)「三側面をつなぐ統合的取組」と記載内容が重複する場合は、【詳細は後掲】とするなど補足し、関連性が最も深い箇所へ詳細の説明を記載してください。
- 3年間の総事業費について、概算で記載すること。なお、資金スキームについては、「(7)資金スキーム」の欄に記載すること。

- 取組の進捗管理の際には、以下の計算式を基本としKPIの達成度を測る。

$$\text{達成度の計算式(基本式)} = \frac{\text{現状値(進捗評価年の現状値)} - \text{当初値(計画時の現在値)}}{\text{目標値(2025年の目標値)} - \text{当初値(計画時の現在値)}}$$

- また、上記の基本式で計算できないKPI(人口、空家数など維持を目標とするKPI等)を設定した場合は、別の計算式を用いても構わない。ただし、計算式の設定にあたっては、達成度を適切に表現することができるよう留意すること。その場合は、使用する計算式についても併せて記載すること。







## (3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

### (3-2-1) 経済⇄環境

- 三側面をつなぐ統合的取組によりもたらされる相乗効果等について、KPI 及びその概要を記載すること。
- ここで設定する KPI は、「2030 年のあるべき姿に向けた優先的なゴール」で掲げた KPI の達成に繋がることを意識した上で、アウトプット指標又はアウトカム指標が設定されていることが望ましい。
- KPIを設定するにあたり、取組及びそれによる変化・効果を明記すること。  
なお、変化・効果については、可能であれば、ロジックモデル及びインパクト評価を用いることを検討されたい。(5ページ「ロジックモデルとインパクト評価について」参照)
- 設定されたKPIの進捗確認を毎年行うため、1年ごとに進捗を測ることが可能なKPIを設定することが望ましい。
- 取組3年目の進捗を測ることが可能なKPIを設定すること。
- 例えば、「経済→環境」については、(3-1)で設定した三側面をつなぐ統合的取組を実施し、(2)で設定した経済面(環境面)の取組が推進されることにより、環境面(経済面)の取組に生じる効果(トレードオフの緩和及びシナジー効果)について記載すること。  
例:○○○(三側面をつなぐ統合的取組)の活用により、経済面の○○○の取組が改良・改善され、環境面において○○○の増加という相乗効果(新しい価値)が創出される。
- 取組の進捗管理の際には、以下の計算式を基本とし、KPIの達成度を測る。

達成度の計算式(基本式) 
$$\frac{\text{現状値(進捗評価年の現状値)} - \text{当初値(計画時の現在値)}}{\text{目標値(2025年の目標値)} - \text{当初値(計画時の現在値)}}$$

#### ※記載例

KPI(環境面における相乗効果等)	
指標:○○○○	
現在(○年○月): ○○○○	2025年: ○○○○

○○○○(三側面をつなぐ統合的取組)の活用により、経済面の○○○○の取組が改良・改善され、環境面において○○○○の増加という相乗効果(新しい価値)の創出が見込まれる。





#### (4) 多様なステークホルダーとの連携

- 連携する団体・組織名と、モデル事業における位置付け・役割を可能な限り具体的に記載すること。
- 自治体SDGsモデル事業の実施体制として、コンソーシアム等が形成されている場合には、その概要について記載すること。(今後形成する予定がある場合には、その旨明記すること。)
- 連携する団体・組織と調整中の理由により固有名詞等を記載することが困難な場合は、団体概要(例:民間企業、一般社団法人等)に留めて構わない。

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
〇〇〇〇	〇〇〇〇









## (8)スケジュール

- モデル事業(三側面の取組及び統合的取組)のスケジュールを記載すること。
- どの時期に何が達成されるか(例:○年○月までに拠点整備、○年○月までに人材育成プログラム開発等)がわかるよう具体的に記載すること。
- 現段階では、2023～2025年のスケジュールはおおまかな予定で構わないが、各年度の進捗評価の際に、次年度のスケジュールを詳細に更新していただく予定である。

	取組名	2023 年度	2024 年度	2025 年度
統合	○○○○			
経済	○○○○			
社会	○○○○			
環境	○○○○			

※記載例

	取組名	2023 年度	2024 年度	2025 年度
統合	〇〇〇〇事業	事業計画の策定 (～8月) →                     〇〇協議会設立 (～10月) →                     〇〇〇〇の整備 (～1月) →                     試験運用 (～3月)	〇〇〇〇の本格運用 →                     〇〇協議会の全員拡充	〇〇〇〇の普及展開 →
経済	①-1 〇〇〇〇の取組	〇〇導入検討調査 (～9月) →                     事業者募集 (～11月) →                     〇〇の開発 (～1月) →                     試験運用・実証調査 (～3月)	改良検討 →                     本格運用	〇〇〇〇の普及展開 →
社会	②-1 〇〇〇〇の取組	〇〇計画の策定 (～9月) →                     事業者募集 (～11月) →                     〇〇の企画・準備 (～1月) →                     イベントの実施 (～3月)	イベント実施 →                     〇〇〇〇と連携した取組推進	
環境	③-1 〇〇〇〇の取組	〇〇導入検討調査 (～12月) →                     〇〇導入に係る〇〇の整備 (～3月)	〇〇の試験運用 →	〇〇の本格運用及び検証 →